

》アメリカ緊急レポート《

栄養療法で末期がんも治る

連載 34

今村光一(医事評論家)



2週間間でがんが小さくなってきたと語るゲルソン病院の入院患者と付き添いの娘さん

毒薬抗がん剤のツケは大きすぎる

今までの連載に関し反論や問い合わせがきている。がんセンターなどつぎつぎはもつとがんはよく治るようになるという私の主張には、主に医者から次のような反論と疑問が編集部にくる。「従来の療法でよくなつてい

「それは初期のがんだけでしょ。末期がんには手はあるのですか?」

「これは初期のがんだけでしょ。末期がんには手はあるのですか?」

実績のある外国の病院へ行くのがベスト

一関心を示し始めているところ。以上のための書籍や外国の病院のリストぐらゐは提供できる。

たゞえば手術で腫瘍(しゅよう)をとる。こうすると患者は確かに体にかかえる負担がなくなる。だから確かに少なくとも一時的にはよくなったように見える。初期の胃がんのようなケースが典型的である。

「たゞ日本に珍しい甲田病院(八尾市)という医院がある。この療法で治った患者に私も会っている。しかし本当に高い治癒率を上げるにはどれがいいかは勉強のうえ自分で決めることである。同医院の甲田院長も私も二十九日に日本綜合医学会(問い合わせ先 03・811・13660)で講演する。来

しかし困るのは手術と同時に毒薬(抗がん剤)をぶちこんだりして先に行って払い切れない命という高い利子を払わず下地をつくるようなことをしているのが通常療法である。

「これは不安という人が多いのは当然だが、一つの手は事情が許すなら実績のある外国の病院に、二カ月行って自分の目と手で齧つてきて後は自分で実行するのが今のところベストかと思われ。」

なぜがんが怖い病気にされてきたのか? もう一つはもう少しじめに答える気になる疑問や依頼で、日本に本欄で紹介のような栄養療法をやる病院や医者はいるか、いるなら紹介してくれというものである。これに対する答えは一言でいえば次のとおりである。

すべてをトータルすれば通常療法は十割ぐらゐは稼ぐとして、その十割のために数百点のマイナスをつくつていて差し引きは大きなマイナスである。第一、通常療法がいい療法なら、